

## 重点項目 1

### 環境情報を、分かりやすく情報提供します

本来、市民や市民団体・事業者・行政が行う環境への取組や環境情報の発信などの活動は、個々の役割や立場で行うことも有効ですが、総合的かつ体系的な実施により、さらに相乗効果が得られるものです。

これまで本市では、全市的な啓発イベントである「環境フェスタ」や、市民生活に身近な水の循環を意識した「水の学校」などの啓発事業を進めてきており、また、市民団体・事業者等においても、それぞれの役割や立場で数多くの啓発事業を実施しています。

しかし、それらの啓発事業における情報発信内容の多くが現象面の情報に留まり、根源まで遡った情報や様々な取組、環境要素の関係性を明確にするような内容となっていないため、情報を受信した人の環境配慮行動へと繋がっていない面も見受けられます。

このため、世代のニーズに合った情報提供となるように、啓発・情報プログラムの体系化、内容・質にこだわった一元的な情報提供、発信方法の工夫・改善により、市民や市民団体・事業者等の自発的な行動と連携を促し、各主体の環境意識の向上を一層図ります。また、今後整備予定の（仮称）エコプラザ、学校、市関連施設等を活用し、子どもから大人まで、全市民的な環境学習を推進します。

## 重点項目 2

### エネルギーの地産地消都市を創造します

私たちは、地球温暖化やエネルギー資源の枯渇等の地球規模の環境や社会状況等の変化を捉えて、エネルギーに対する課題の共有を図り、責任を持って解決していく必要があります。

これまで本市では既に、3000kw 以上の太陽光発電設備、住宅用高効率給湯器、灯具の LED 化などの創エネ・省エネ機器の導入が進めてきました。

しかし、この取組だけでは、長期的な目標である「都市の低炭素化」や「スマートシティ」の実現にはならず、再生可能エネルギーの賦存量に乏しい本市のような消費型都市では、さらなる取組の推進と工夫により、まち全体のエネルギー消費量の抑制とエネルギーの効率化な利用が必要です。

このため、市民・事業者・行政の各主体による省エネ・創エネの取組を一層推進するとともに、温度差利用・熱利用等の未利用エネルギーの積極的な活用、太陽光発電などの既存設備との組み合わせによるエネルギーの効率的な利用等を図ります。また、各主体が一体となって、まちづくりとの連動や生活の快適性維持等の広範な視点から対策を進め、将来の水素社会を見据えた水素活用について検討を図るなど、エネルギーの地産地消都市に向けた取組を推進します。

## 重点項目 3

### 緑と水に配慮したまちづくりを推進します

私たちは、第一期長期計画の六大事業に緑のネットワーク計画を位置づけ、現在もその意思を引き継ぎ、市民自ら緑の保全・創出の取組を進め、また、水辺空間の整備や雨水の利活用などの取組も積極的に進めてきました。

この緑や水などの生活に身近な環境の保全・創出が、本市の「住みたいまち NO.1」としての評価、まちの価値の向上の一翼を担っており、延いては、地球環境の保全とも繋がっています。

しかしながら、近年では、本市内でもゲリラ豪雨が発生するなど、私たちの身の周りにも地球温暖化等に関連すると思われる影響が出てきており、改めて、身近な環境の保全・創出の重要性が増してきています。

このため、市民・事業者・行政等が一体となって、暮らしやすさを意識しながら、緑の質・量、まちの景観・美観、自然環境等に配慮した都市空間の創造に向けた取組を推進するとともに、地下水利用、雨水浸透、井の頭池の湧水復活等、水の循環を意識したまちづくりを推進します。また、井の頭恩賜公園の開園 100 周年（平成 29 年）を一つの象徴と捉え、市域内外の環境課題に対しても、市民等の環境保全・創出の意識向上を図ります。